

『ステキなお姉ちゃん』

東栄小学校 4年 Y A

わたしは、1年生の時、強い言い方でなにかいやな事を言われると、うまく言いかえすことができなくてなきだしそうになることがありました。そして、学校に行きたくないなあと思うときがたくさんありました。

ある朝、いつものように家の前の通学団で集まっている時、近所のお姉ちゃんが通りかかきました。すると学校に行くと、また、いやなことをいわれるんじゃないかと思って、心配そうな顔をしたわたしを見て、明るいえがおで、声をかけてくれました。

「Aちゃんおはよう。わたしも、いやな事いろいろあるけど、がんばって学校いくから、Aちゃんもがんばってね。おうえんしてるよ」と言ってくれたのです。

わたしは、お姉ちゃんも、いやなことがあっても、がんばって学校いっているんだなと思ったら、ちょっとうれしくて、心が温かくなって勇気がわいてきました。

しばらくして、学校に着くと、また、強い言い方をする子に、なにかいやな事を言われた。わたしは、最初だまっていたのですが、朝お姉ちゃんに言われことを思いだして、勇気をふりしぼって、自分が思ったことを、相手に言いかえしてみました。

そうすると、たちまち心のかべがバアーと開いた感じで、すっきりしました。それから、強い言い方をする子は、わたしになにも言わなくなりました。

わたしは、そのことがあってから、心が楽になって、学校に行くのが、毎日楽しくなりました。

わたしは、近所のお姉ちゃんに声をかけてもらったことで、思ったことが2つあります。

1つ目は、いやなことを言われて、だまっていた、相手に自分の気持ちを、伝えないことは、何ひとつ、いいことが、ないということです。反対に、いいたいことを、はっきり相手に伝えられることは、すごくステキなことです。気持ちも、楽になる。これからは、自分の気持ちを相手に、はっきり伝えることが大切だと思いました。

2つ目は、わたしが、近所のお姉ちゃんに、声をかけてもらったことで、自分がかわることができたので、今度はこまっている人や、なやんでいる人がいたら、やさしく声をかけてみようと思いました。

わたしにとって、近所のお姉ちゃんは、あこがれのそんざいです。近所のお姉ちゃんみたいに、わたしも相手の気持ちを考えて、やさしくできる人に、なりたいと思います。